

11 教育·文化

基本情報



【年齢】
32歳
【出身地】
北海道 豊浦町
【転出元】
北海道 札幌市
【前職】
ヨガインストラクター
人材育成
【活動時期】
R5.4～（3年目）

協力隊に応募したきっかけ

ずっとヨガスタジオで働いていましたが、3年前に独立を決意。関西の店舗から、札幌に転勤したことをきっかけに、「海が見える場所で仕事がしたい。」と地元豊浦町が頭に浮かびました。サップヨガ講師として豊浦町に来た際に、この地域おこし協力隊の制度を知り、「地域の繋がりづくり」という所に共感し応募しました。

今後の抱負・任期後の目標

任期3年目。地域ヨガクリエイターとして、地域と繋がる場所づくりや、女性が安心して性や子育ての情報交換ができるコミュニティづくり。形になっているものが増えてきました。今後は「地元の人に還元できる仕事とやりたいを叶えるの両立」を軸に、豊浦で通信事業の立ち上げをしつつ、移住・起業のサポートとして関わられたらと思います。

活動内容

●学校や職場でヨガの提供

ヨガをすることで身体能力の向上や、ストレス緩和、学びの向上、コミュニケーションスキルの向上など、学校や職場、企業団体で出来る健康と心身の余白づくりを手助けしています。クラブ活動や朝5分ヨガなど、1日の健康ルーチンを提供しています。



●一フェムケア公民館講座

性についてあたりまえに学べる場を作りたい。恋愛・結婚・妊娠・出産・子育て・仕事。生きる中で立場や身体の変化が当たり前にあるのが女性のカラダ。しかし性について知ることがタブーとされていた背景もあるからこそ、ウエルネスの観点で当たり前前に気軽に学び、共感できる時間を作っています。



●SUPやラジオで地域の魅力を発信！

幅広い層に親しみを持ってもらいたい、今ある町の魅力をもっと知ってほしい！という思いで、海が見える町豊浦町でサップ体験会を実施したり、ビーチヨガを実施したりしています。町の魅力を深堀！というコンセプトでFMラジオやInstagramも更新中。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】
(メールアドレス) totoyoura.miumi@gmail.com
(電話番号) 0142-83-2239 (豊浦町教育委員会 生涯学習課 社会教育係)

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなどのURL】
みうみ と とようら
https://instagram.com/miumi_to_toyoura



基本情報



【年齢】
31歳
【出身地】
宮城県仙台市
【転出元】
宮城県仙台市
【前職】
保育教諭
【活動時期】
R6.5~R8.5(予)

協力隊に応募したきっかけ

「子どもが大人になることに希望がもてるまちづくりへ」
保育教諭として子どもの主体性を大切にしながら勤務してきました。卒園児を小学校へ送り出す中で、【小1の壁】にぶつかる子どもを何人も見てきました。子ども達が下を向く姿を見ているうちに、いつしか他人事ではなく、一施設に留まらず地域全体で子どもたちと関わる仕事をするのができないかと考えるようになりました。

しかし、それを実現するためにはどの職に就くべきか、あるいは仕事を0から創るべきか、当時は判断がつかせませんでした。そこで、協力隊制度を活用することを選択しました。

今後の抱負・任期後の目標

社会の変化に伴い、日本の教育現場も、従来の画一的な教育から個別最適化への転換期を迎えています。さらに、教育、子育ての課題は増えていく一方で、この状況を改善するためには、一施設(家庭)だけでなく、地域住民や異業種層の協力、さらには異年齢交流が必要であると捉えています。そのためには、架け橋となるコーディネーターという存在が重要であると考えています。

任期後、コーディネーター事業(活動,人材育成)と、子どもの居場所事業を軸とした【教育サポート×まちづくり会社】の法人設立を目標としています。行政・教育現場・町民のハブとなり、教育・子育て環境の支援や充実に貢献していきます。

活動内容

●教育×まちづくり会社の設立に向けて

①美里スクールデザインプロジェクト構築化へ

「Learning Link Lab」～学びのつながりを∞に～

→R6年10月から町内の小学校も活動拠点と認められ、職員室に席も設置されました。現在は【斜めの存在】として児童、教員と関係性を構築中。校内にコーディネーターが常駐することで、公教育の質の向上、教員のサポート、さらには、子どもにとって安心できる人・場の増加など、相乗効果について模索中です。また、学校独自の地域ボランティア団体の取りまとめ役を引き受け、学校と地域が共に子どもたちを支えることができる仕組みづくりについても実践中です。

②子どもたちのやってみたいをカタチにするでんえん寺子屋

→R6年2月から、同小学校の児童を対象に登録制の放課後地域活動として、子どもの居場所を週3回約1時間程度、実施中です。現在(R7年6月時点で)229名の児童が登録中です。預かりではなく、自由に寄り道ができる場、多様な地域住民と交流できる場、心の充電ができる場として、学校と行政の理解と、町民のサポートを得ながら場づくりを行っています。

③その他

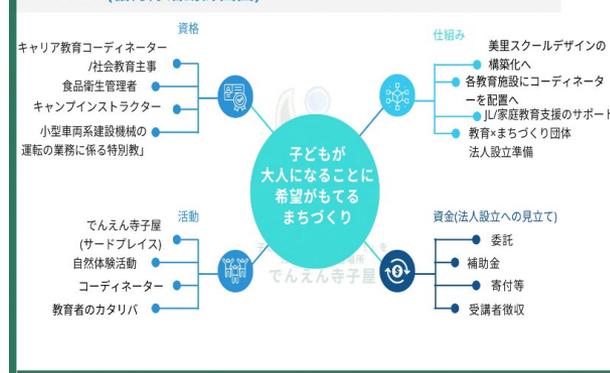
→町内の中高生の総合学習や探求学習のサポート。

→地域のJL/家庭教育支援チームのサポート。

→町内の幼保小の教員同士の交流の場づくりを計画中。



ACTIVITY(協力隊活動計画図)



連絡先

【メディア等の取材連絡先】

(メールアドレス(個人)) jj09.shira@gmail.com

(電話番号(個人)) 080-1842-2546

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】

Instagram でんえん寺子屋-子どもの「やってみたい」をカタチにする居場所-
@denen_terakoya



基本情報



【年齢】
31歳
【出身地】
神奈川県藤沢市
【転出元】
宮城県気仙沼市
【前職】
岩手県住田町
教育コーディネーター
【活動時期】
R4.4～R7.3（3年目）

協力隊に応募したきっかけ

元々つながりのあった前協力隊に紹介いただきました。祖母の地元が近いことや、昔から長野に縁があったことも決め手となりました。

前職でも近い仕事をしていましたが、学校ではなく地域側から高校生と関われることに魅力を感じています。

今後の抱負・任期後の目標

これからも、高校生がわくわくする瞬間を作っていきたいです。

軽井沢で求められていることと、自分の強みや特性を踏まえて、何が実現できるかを考えていきます。その積み重ねが、任期後のキャリアにつながると考えています。

活動内容

軽井沢町学習センター（公設塾）の運営

軽井沢高校の敷地内にある学習センターで、放課後（16:00～19:00）の学びの場を運営しています。

普段は、学校帰りに立ち寄る高校生に向けて、英国数を中心とした講座や大学受験に向けた対策など様々な取り組みを行っています。



高校生と社会人の接続

高校生にとって、親や教員以外の大人に出会うことは、視野が広がり、選択肢を増やすきっかけになります。

今年度は、高校内に地域連携室ができ、地域連携コーディネーターとしても高校と地域の接続にも携わっています。



軽井沢高校「探究学習」等の伴走

軽井沢高校で行われている「探究学習」について、教員の先生方と打ち合わせをしながら生徒の伴走や地域との接続をサポートしています。

今年度は、インタビューをしに地域へ出る生徒や、自分の興味関心のあるテーマに関して企業へ相談に行く生徒など、様々なアクションが生まれました。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】

軽井沢町役場 ども教育課 軽井沢高校・教育魅力化推進係
（メールアドレス）karuizawa.gakushucenter@gmail.com
（電話番号）0267-31-5195

基本情報



【年 齢】
45歳
【出身地】
京都府京都市
【転出元】
京都府京都市
【前 職】
旅行系媒体のライター
(継続中)
【活動時期】
R6.5～R9.4

協力隊に応募したきっかけ

林業・製材業者や、地方移住者への取材経験から、地域が置かれている課題を感じていました。尾鷲でのローカルコープ構想は、まさにその課題を解決するための取組だと感じ、思い切ってチャレンジしました。

今後の抱負・任期後の目標

まずは、ローカルコープの組織を立ち上げ、尾鷲の皆さまへ活動内容を周知し、応援して頂けるように頑張ります。「自然と共にあり、持続可能で、人がありのまま生きられる場づくり」が最終目標です。それを尾鷲で実現できたら嬉しいです。

活動内容

●ローカルコープ尾鷲の立ち上げ

ローカルコープは、少子高齢化や人口減少が進むなか、22世紀にも尾鷲の街が持続できるよう様々な取り組みを行うための組織です。地域住民が主体的に運営し、自治体の機能を補完することを目指しています。

現在は、市で推進するゼロカーボンシティに則り、森林のJクレジット取得や生物多様性の保全、新しい教育づくりなどに取り組んでいます。

●「みんなの森プロジェクト」の推進

九鬼町にある市有林で、長年の林業施業によって傷んでしまった森に生物多様性を回復させるための整備を行っています。令和6年に行われたワークショップではのべ700人以上の方に参加頂きました。古来から伝わる落葉や枝を使った「しがら」という整備方法で水源を改善し、水生生物や鳥の気配が森に戻ってきています。今後はより市民の皆さんに参加して頂けるよう、体制づくりを進めています。

●新しい林業の模索

広大な尾鷲の森には、市有林だけでなく民間所有の森林もたくさんあります。林業経営が厳しさを増す中で、生物多様性や環境保全に配慮した新しい林業の在り方を、ローカルコープを通じて市民の皆さんと一緒に考えていきたいです。

連絡先

みんなの森プロジェクト

●Facebook

<https://www.facebook.com/commonforestowase/>

●Instagram

minnanomori.owase

基本情報



【年 齢】
26歳
【出身地】
台湾台中市
【転出元】
北海道東川町
【前 職】
旭岳自然保全員
【活動時期】
R5.12～R8.11

協力隊に応募したきっかけ

僕は大学の時に北海道大学の交換留学のために日本語を学び始めました。その際に、東川町立の日本語学校について知り1年間通いました。そのような形で、日本に興味を持ち、日本で自分の力を発揮できる場所はないかと探している際に尾鷲を見つけました。

自然保全、オルタナティブ教育、地方創生など、自分が関心を持っていることについて携わることができるため、これより合う仕事はないと思い応募しました。

今後の抱負・任期後の目標

- ・尾鷲の自然と町を繋げる。
- ・ネットワークスクールを立ち上げる。

活動内容

●紹介①

ローカルコープ構想について、市内だけでなく市外の方にも知っていただくため、ワークショップ等を行うことで関係人口の増加に取り組んでおります。

こちらは今年7月に台湾のオルタナティブスクールが尾鷲へ修学旅行で来た時の写真です。



●紹介②

ゼロカーボンシティの推進のため、九鬼町にある市有林「みんなの森」にて、生物多様性と林業の両立を目指す森づくりを行っています。



連絡先

みんなの森などの
プロジェクトのSNS



基本情報



【年齢】
47歳
【出身地】
福井県越前市
【転出元】
埼玉県さいたま市
【前職】
会社員
【活動時期】
R6.4～R9.3

協力隊に応募したきっかけ

首都圏で仕事をしていた30歳頃に将来の働き方・生活スタイルを考え、50歳までにUターンすることを決意しており、仕事の区切りがよいタイミングとなった令和5年度に退職を決意。その後、海と山に近い自然豊かな地方で「地域×教育」をキーワードとし、民間企業以外で地域貢献できる仕事に就きたいと転職活動している中で、京丹後市に運命的な出会いを感じたから。

今後の抱負・任期後の目標

地元の個人・企業・行政との繋がりに加え、地元自治会との繋がりを強め、身近な地区レベルの地域課題解決に取り組める環境づくりと単年度内での取組みから、年度を跨いだ取組み（生徒個人としては3年間、高校としては後輩への継承による長期間）へと発展できる持続可能な仕組みづくりをしたい。
任期終了後は、地元高校OB/OG生が都心部よりUターンした後も、地元で稼ぐ力がレベルアップできる環境・仕組みづくりとともに、10～30代に魅力ある仕事づくりをしたい。

活動内容

●地域とのネットワークづくり

従来の学校教育の視点だけではなく、より多角的な視点で地域資源（ひと・もの・こと）を捉えながら、高校生の意識の変化や興味・気づきを促すために高校と地域の「架け橋」として、高校生・先生と行政や企業、地域の団体や人を適切にマッチングしていくとともに、農・食・観光など高校の学科特性に応じた学びのサポーターづくり。

●探求授業における総合的サポート

探究活動・課題研究活動等における教員にない視点からの提案・支援。具体的には、首都圏で仕事をしてきた経験をもとに、先生達が教えたい思い・技術を肉付けする事例紹介や生徒達の困り事・悩み事解決のきっかけ・後押しとなるアドバイスなど。



●ふたつの学舎（網野、久美浜）の連携促進

ふたつの学舎で学ぶ生徒達が連携して行う活動に対する教員にはない視点からの提案・支援。具体的には、商業科と農業科の合同企画におけるアドバイスやマーケティング授業での全校生徒アンケート実施における学舎間調整など。

連絡先

【メディア等の取材連絡先】
京丹後市 市長公室 政策企画課
(メールアドレス) kikaku@city.kyotango.lg.jp
(電話番号) 0772-69-0120
【活動拠点】
京都府立丹後緑風高等学校（網野学舎・久美浜学舎）

基本情報



【年 齢】
34歳
【出身地】
奈良県奈良市
【転出元】
新潟県上越市
【前 職】
中学校講師、小学校講師
【活動時期】
R5.5～R8.3

協力隊に応募したきっかけ

中高生世代の学びと育ちの場は、現状とても限定的です。家庭や学校だけでなく、より多様な人からの関わりがあればもっと伸びるであろう子どもたちを前にして、中学校の教員をしていた私自身、悔しい思いをしてきました。学校だからできることがたくさんある一方、学校ではできないこともあります。そして、家族でも先生でもない立場だからこそできることもあります。みんなで中高生世代の育ちを見守り、彼らの可能性を信じることのできる社会に向けた仕事に挑戦したいと思い、応募しました。

今後の抱負・任期後の目標

ユースセンターは、中高生世代が主役の場所です。大人の思いは一旦横に置いて、ゆっくりじっくり中高生世代と向き合い、彼らの思いを大切にしながら進んでいきたいと思っています。今後はスタッフを増員して、さらにパワーアップした体制でプロジェクトを進めていけたらと考えています。

活動内容

●ユースセンターの運営

ユースセンターの定期開室。現場でのユースワークの他に、企画・営業・経理・広報・役場内外との調整・スタッフ採用・スタッフのマネジメント等、業務全般を行っている。地域を歩き、地域の中高生と積極的にコミュニケーションを取ることで、安心な大人であると思ってもらえるよう活動している。



●まち全体に飛び出した活動

近鉄石見駅前ロータリーにて、高校生を中心にまちの人がゆるやかにつながる「TEENS BASE」の取り組みで、高校生との接点づくりをしている。また、まちのなかを自由に動き回ることのできる移動式屋台「MICHIKUSA STAND」も準備中。



●子どもの居場所部会

担当課の健康子ども課が事務局となっている「子どもの居場所部会」への出席。小中学校、教育委員会、教育支援センター等、子どもにとって居場所となりうるセクターの方々と定期的に集まり、アンケートの実施やそれぞれのセクターでの動きや困りごとなどを共有することで、地域一丸となって子どもについて考え、行動している。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】
(メールアドレス) youth@town.miyake.lg.jp
(電話番号) 0745-43-3580

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
(ユースセンター公式Instagram) https://www.instagram.com/miyake_yc/
(三宅町公式note) <https://miyake-town.note.jp/m/m0985a3c8fb2c>

基本情報



【年 齢】
28歳
【出身地】
東京都西東京市
【転出元】
島根県津和野町
【前 職】
幼稚園教諭・保育士
【活動時期】
R5.4～

協力隊に応募したきっかけ

前任の幼児教育コーディネーターが任期満了となり、後任を探しているタイミングで声をかけていただきました。地方への引っ越しは想定外でしたが、SNS等を通して様々な地域の保育者と情報交換をする中で、東京の感覚しか知らない状態は非常に視野が狭いのではないかと考えていた頃でした。「3年間」と期間が決まっていたこと、夫の勤め先がフルリモートでの勤務を認めてくれたことに加え、同年代のIターン者が多いことが最後の後押しとなり、応募に至りました。

今後の抱負・任期後の目標

都心の人と地方の人が交わると、互いがもっているものに気付き「あるものを活かそう」という気持ちが生まれることを実感しました。これはどちらか片方のみでなく、両者にとってのメリットであると考えます。未来がどう変わっていくか想定することが難しい今の時代においては、特に子どもの側にいる大人がいかに価値観を広げ、変わっていきけるかが重要なように感じます。様々な場面、場所で、できるところからきっかけ作りを続けたいと思います。

活動内容

●町内保育者向け研修の企画・運営

町内保育士の資質・能力向上のため、様々な研修を企画しています。町内の保育者が行き交う「保育士留学」や県外園への視察、町内保育士全員参加の実践発表会「保育展」など、様々な角度から学べるよう工夫しています。課題に合った研修となるよう、各保育所の定期的な訪問も行っています。



●保育士インターン事業

令和6年8月より地域おこし協力隊のインターン制度を活用し、保育士インターンの受け入れを開始しました。東京や福岡からすでに4名の参加があり、今後も2名が決定しています。各園も負担感なく受け入れており、好評です。参加者の中にはご家族で滞在する方もおり、移住に繋がることを期待しています。



●文部科学省 架け橋プログラムへの伴走

保育所と小学校の連携、接続のための事業である「架け橋プログラム」に2年間携わり、土台作りを行いました。令和6年度で事業としては終了しますが、0歳児からの学びが校種を超えて接続されていくように今後も各所と関係性を作り、外部サポート役として伴走していきます。



youtube

連絡先

【メディア等の取材連絡先】
(メールアドレス(職場)) yumeno-maie@town.tsuwano.shimane.jp
(電話番号(職場)) 0856-72-0673)

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
(note) https://note.com/yumeno_maie
(Instagram) @tsuwano_hoiku



note



Instagram

基本情報



【年齢】
28歳
【出身地】
福岡県福岡市
【転出元】
福岡県福岡市
【前職】
プラネタリウム解説員
【活動時期】
R5.4～（1年目）

協力隊に応募したきっかけ

以前ご縁があって、小郡市を訪れた時に大きな望遠鏡が設置されたドームの存在を知りました。そこから小郡市について調べると地域には七夕文化が根強く残っていたことを知り、小郡市の地域資源と文化の2つと私のプラネタリウム解説員としての経験を活かして小郡市から天文・宇宙の魅力を発信したいと考え、応募しました。

今後の抱負・任期後の目標

地域の子どもたちにもっと天文・宇宙の魅力や面白さに気付いてもらいたい、と考えているので継続的な星空観望会の実施や、子ども向けや一般向けの天文講座を開き、天文・宇宙に限らず、科学の広い範囲を扱い、考える人の育成、そして科学リテラシーの向上を目指したい。

任期後については現段階では不明。

活動内容

●七夕観望会など子ども向けの天文イベント

小郡市は昔から七夕文化と深い関わりがあるため、伝統的七夕の日に、七夕伝説や七夕にまつわる星座を学び、実際の夜空で見つけてみよう、という会を実施したり、子ども向けの天文講座を開催したりします。



●市民天体観望会

地域の天文スタッフの方々と協力して、毎月1回実施する市民天体観望会に解説役として参加。その季節の星座や惑星、月などを望遠鏡で観測しながら解説をします。



●小郡寺子屋「志学舎」

昨年度（R4）から市の青少年育成事業として始まった、小郡寺子屋「志学舎」に携わっています。未来の日本を担う、次世代のリーダー育成を目的に、小郡市の地域資源である企業や人材を活用した体験活動や企業訪問、スピーチコンテストなどを通して、自分の考えを持ち、行動する人材を育てます。

連絡先

【メディア等の取材連絡先】
（メールアドレス（職場））koiku@san.bbq.jp
（電話番号（職場））0942-72-2111（内線673）

基本情報



【年齢】
35歳
【出身地】
福岡県糟屋郡志免町
【転出元】
東京都中野区
【前職】
建築設計
【活動時期】
R5.4~

協力隊に応募したきっかけ

うきは市の中心部の筑後吉井地区における重要伝統的建造物群保存地区にあっては、集合体としての個性を継承しつつ現代需要に即していくという難しい側面も介在しますが、建築意匠を志す者として、偉大な文化を尊重し、地域固有の生活様式や伝統、造形を学ぶことのできる稀有な題材であり、従事することは多大なる喜びであり、前職の知見等も活かすことができる分野であったため応募しました。

今後の抱負・任期後の目標

今後の抱負として、地域及び文化に根ざし、産官学連携等の活動を積極的かつ継続的に行い、自分の専門分野にレバレッジをかける形で、協力隊の活動と経営ビジョンを相乗的に実行できる枠組みを構築します。
建築設計、デザインに関する個人事業主の開業を行い、まちづくり及びプロジェクトマネジメントにおける法人設立を実行いたします。
任期後の目標については、一級建築士事務所設立と上記戦略を軌道に乗せ、うきは市に貢献することです。

活動内容

●ゲストティーチング(小学校)

地域の歴史資源や風土をテーマとして、ゲストティーチングを行っています。イラスト等を効果的に用いることで子どもたちの集中力や好奇心を削がない工夫を行い「なぜ歴史文化を守っていかなければならないか」等を通じて、“子どもたちと一緒にたのしく考える”ことを最重要視しています。



●企画立案、資料作成および戦略策定

伝建、古墳等の歴史的資源の活用、教育関連事業の展開、ワークショップやイベントの企画、調整を行うとともに、ブランディングや持続性を担保させるための戦略策定を中心に行っています。先行上位計画や市史などの既存文献の精査にも力を注いでます。



●歴史文化資源の維持、保全、活用

一級建築士としての知見を活用し、伝建地区における災害時の巡回、対応や法的与件整理、市発注事業における設計内容の精査、レビュー、イメージ作成等を行なっています。空き家や観光におけるまちづくりに関して、他部署への協力要請にも柔軟な対応行なっています。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】
（メールアドレス（個人 or 職場）） misumi@sharetodesign.com
（電話番号（個人 or 職場）） 080 5609 6878
【活動の様子を発信している SNS ・ ブログなど】
うきはブランド推進隊HP

